

実践事例レポート

生徒の資質・能力を育む特別活動

ここからは、目の前の生徒の課題や育成したい生徒像を基に特別活動をデザインし、実践している4つのケースをご紹介します。



Case 1

カリキュラム再構築にあたり、特別活動の役割を明確化

協働して課題を解決する体験を通して、社会形成に必要な資質・能力を育成する

三次中学校・高校(広島・県立)



高校進路指導部
進路指導主事
久保慎太郎先生



中学校教務部
主任
物見 優先生



高校教務部
白石卓也先生



高校総務部
副主任
中本真吾先生



中学校教頭
原田二郎先生



高校教頭
松島康浩先生

横断型の系統的な学び
「プロジェクト巴峡」

2019年度より併設型の中高一貫教育校として新たなスタートを切った三次中学校・高校。2013年度から文部科学省の「高等学校普通科におけるキャリア教育の実践に関する調査研究」の指定を受け、学校設定科目「巴峡」と総合的な学習の時間、LHRの時間を使って、キャリアプランニング能力の育成をはじめさまざまなプログラムを実践してきた。2017年9月に中高一貫化が決まり、6年間を見越したキャリア教育カリキュラムを策定するなかで新たに立ち上がったのが、「プロジェクト巴峡」だ。「従来の巴峡の取組には、生の体験が不足しており、生徒は一生懸命に取り組むものの、何にどうつながっていくかが課題だった。そこで、「巴峡」を通して培ってきたノウハウを基に、カリキュラムの中心となる総合的な探究の時間(以下、総合)を特別活動(以下、特活)や各教科の内容と位置付けながら再構築していった」と高校教務部の白石卓也先生は語る。

プロジェクト巴峡とは、三次中学校・高校が行う教育活動全体を指す。つまり、同校では「すべての教育活動はキャリア教育である」と捉えているのだ。「成熟した未来社会の形成を目指して、社会を進化させるための資質・能力を育てることを目的とした、教科・科目、総合、特活、課外活動などあらゆる学びを横断した6年間の系統的なカリキュラム。生徒の主体的な進路の実現を図るキャリア教育プロジェクトと位置付けており、特に総合と特活では、生徒の主体的な活動を促す取組を重視している」と高校教頭の松島康浩先生は説明する。

プロジェクト巴峡では、6年間で3つの段階に分け、中学1、2年を「主体性の構築」、中学3、高校1年を「主体性の確立」、高校2、3年を「主体性の発揮」と位置付けている(図1)。そして、中高のスムーズな接続や日常的な関連性を意識しつつ、具体的なカリキュラムについては中学校と高校でそれぞれ特色あるものを展開している。例えば中学校では、総合的な学習の時間で3年間を通して「地域の持続性を高める活動(地域を見つめる、地域から

図1 「プロジェクト巴峡」の考え方

学年	中1	中2	中3	高1	高2	高3
段階	主体性の構築		主体性の確立		主体性の発揮	
重点的に育成する 資質・能力	知	徳	体	志	美	

目指す姿を実現するため、
生徒の主体的な学びを促す「プロジェクト巴峡」を実施

プロジェクト
巴峡

各教科・科目

総合的な学習の時間

特別活動・課外活動

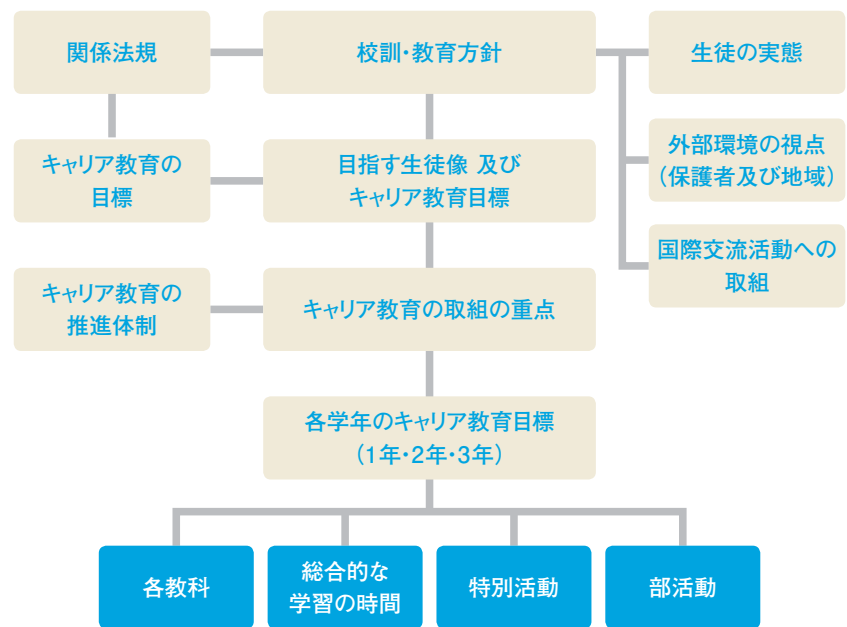
※学校の資料を基に、編集部にて作成

学び、地域の未来を考える」を行うしつつ、「プレゼンテーション」の授業で「多様性への理解力・協働性を高める活動」や「言語表現活動」を行うのが特

図2 高校キャリア教育全体計画の構造

ダウンロード可

※学校の資料を基に、編集部にて作成
※実物はダウンロードでご覧いただけます



個々の教育活動の目的、意義、位置付けを明確化

一方、高校では、校訓・教育方針や

微だ。「あくまでも6年間一貫教育を見越し、中学3年間では未来社会を形成する人材に求められる資質・能力の基礎を身に付けることを目指している」と中学校教頭の原因「一郎先生は語る。

図3 高校特別活動全体計画の構造

ダウンロード可

※学校の資料を基に、編集部にて作成
※実物はダウンロードでご覧いただけます



「知・徳・体・志・美の調和のとれた人物」という目指す生徒像(キャリア教育目標)を軸に、キャリア教育の取組の重点、各学年のキャリア教育目標を設定し、カリキュラムの全体計画を作成している(図2)。

このキャリア教育のカリキュラムの柱となるのが、確かな学力の向上を目指す各教科、自己の生き方などについて

探究的な活動を行う総合、仲間や地域の人と協働して課題解決に取り組むことで社会の一員として必要な能力や態度を養う特活、チャレンジ精神旺盛に生きるための能力を身に付ける部活動の4つだ。さらにその一つひとつについて、全体計画、さらには細かい指導計画が立てられている。

そのうち特活の全体計画では、「知・

徳・体・志・美の調和のとれた人格の形成を目指して、集団や社会の形成者としての見方考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次の資質・能力(コンピテンシー)を育成する」という重点目標を掲げたうえで、ホームルーム活動、生

図4 特活ならびに総合の活動内容と「育てたい資質・能力」、「教科・科目・単元」との関連性一覧

					育てたい資質・能力					教科			公民		理科	
					知	徳	体	志	美	科目	現代社会		物理基礎			
					知性、創造性、主体性	徳性、多様性への理解力、真理追究力	体力、忍耐力、逞しさ	高い志、協働性、チャレンジ精神	美しい言葉・姿勢、豊かな情操、伝統への誇り	単元	私たちの生きる社会	現代社会と人間としての在り方生き方	共に生きる社会を目指して	物体の運動とエネルギー	様々な物理現象とエネルギーの利用	
学年					コンピテンシー											
学期	月	1年	2年	3年	活動	内容										
1	4・6	○	○	○	総合	道徳教育		◎								
3	1-3		○		LHR	課題研究	○		◎		↔○	↔○	↔○	↔○	↔○	
1・2	4-11			○	LHR	課題研究	○		◎		↔○	↔○	↔○	↔○	↔○	
1	4	○	○	○	総合	体育大会 結団式	○		◎							
1	4	○			学校行事	学習 合宿	◎	○	○	○	○					

※学校の資料を基に、編集部にて作成

こうして、6年間を通じたプロジェクト巴峽のコンセプトを幹に、中学・高校それぞれのキャリア教育全体のカリキュラム、そのカリキュラムの柱となる各教科や総合、特活の全体計画、さらに活動ごとの意義・位置付けと、枝葉のように広がったカリキュラムは、今年

実践から学ぶ特別活動で、志を実現する力を付ける

徒会活動、学校行事それぞれの目標を設定。年間の具体的な活動内容も挙げ、地域などとの連携やポートフォリオの活用といった活動の検証方法まで広げている(図3)。

また、これらを3年間の時系列で並べた「3年間のキャリア教育指導計画」も作成。「学校行事」、「各教科・科目」、「総合的な学習・探究の時間」、「特別活動(学校行事以外)」、「その他(キャリアノート)の活用計画など」の5項目を横断的に確認でき、どの時期に何を同時並行して行っているのかという横軸と、どのような流れで行っているのかという縦軸の両軸でキャリア教育全体を把握できるようになっている。

さらに、活動内容ごとに育てたい資質・能力(知・徳・体・志・美)のうちどれと関連があるか、どの教科・科目のどの単元に活きるか(もしくは、どの単元を活かすか)を、事細かに記した一覧を作成。漫然となりがちな特活の取組の目的や意義、位置付けが明確化されている(図4)。

度から本格的に実施されている。「カリキュラムは作ってからが本番。今後は、目の前の生徒の実情に合わせて軌道修正していくことが重要」と中学校教務部の物見 優先生。そのうえで、「今年度は特活のなかでも特に学校行事を学びを深めるフィールドワーク(実地実習)と位置付け、地域の人との連携などを積極的に行っていきたい。そして、地域の課題探究を行う総合と特活の連携をより強めていきたい」と続ける。

さらに、高校総務部の中本真吾先生は、「生徒には、ただフィールドに出るのではなく、地域の方から困りごとを聞いたり、その道のプロに話を聞いたり、一歩踏み込んだ生の体験をしてほしい」と加える。

また、進路指導主事の久保慎太郎先生は、「キャリア教育の意義は、自分が進みたい道は本当にこれなのか、という気が生徒自身にあること」と述

生徒の声

学校行事を通して、成長を実感しています

120周年だった昨年の文化祭で、実行委員長を務めました。以前は人に頼むのが苦手自分で背負いこんでしまうタイプでしたが、文化祭を通して仲間と協働することを学び、自分自身も大きく成長できたと思います。(天根千晴さん)

学校行事や探究などを通して経験したことは、キャリアノートに記しています。何をやったかということやそのときに感じたことなどをかたちとして残せるので、今後は進路にも役立てていきたいです。(坂口昂輔さん)



天根さん(3年・写真右)と坂口さん(3年・写真左)

べる。同校の生徒が志望する職業や生き方には偏りが見られ、「道を早く決めすぎるが故に可能性を狭めている面もある」と指摘する。「根本にあるのが生の体験の不足。そこを捕うのが、地域に根ざした探究活動に取り組む総合であり、就業体験や大学訪問などの「特活」と久保先生は考える。

最後に松島先生は、こう語った。「中高一貫教育校には、地域の中でも高い志をもつ生徒が集まります。今後は、生徒たちのその志を6年間を通していかに実現させるかが、これまで以上に求められると考えています。志を実現する難関大学に合格する、ではありません。志を強くもち、目指す目標に向かって時に自分で、時に協働して、努力や挑戦ができる。特活は、そのような生徒を育てるために、実践的な取組ができる重要な要素と考えています」

また、進路指導主事の久保慎太郎先生は、「キャリア教育の意義は、自分が進みたい道は本当にこれなのか、という気が生徒自身にあること」と述

また、これらを3年間の時系列で並べた「3年間のキャリア教育指導計画」も作成。「学校行事」、「各教科・科目」、「総合的な学習・探究の時間」、「特別活動(学校行事以外)」、「その他(キャリアノート)の活用計画など」の5項目を横断的に確認でき、どの時期に何を同時並行して行っているのかという横軸と、どのような流れで行っているのかという縦軸の両軸でキャリア教育全体を把握できるようになっている。